
記憶を失って

工藤 杏奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶を失って

【Nコード】

N8818K

【作者名】

工藤 杏奈

【あらすじ】

哀をかばって撃たれたコナンは、一命は取り留めたが記憶喪失になってしまった。

新しい生活を始めたコナンだったが、自分の記憶がないことに焦り、自分の中に閉じこもるようになってしまう。そしてついに・・・
まわりのみんなは元のコナンを取り戻せるのか！

黒の組織（前書き）

FBI、CIAの協力と、ベルモットのNOCとしての活躍で、コナンと哀は黒の組織への潜入に成功した。

黒の組織

コナンと哀は、黒の組織のメインコンピュータのデータを削除していた。その時、

「ほう、こんな姿になっていたとわな、工藤新一。それにシェリー。」

「ジンはそう言う」と哀に銃を向けた。

「さらばだ、シェリー。」

哀は思わず目を閉じた。しかし、少なくとも5回は銃声が聞こえたのにまったく痛みを感じない。

恐る恐る目をあけるとFBIの赤井秀一がジンを狙っている。赤井がジンの銃を撃つたらしく、部屋の隅にジンが先ほどまで哀につきつけていた銃が転がっていた。

ふと下を見ると・・・

「く、く、工藤君？・・・工藤君！工藤君！！」

哀の足元には、血まみれになったコナンが転がっていた。

その後、赤井はジンを連れていき、哀とベルモットとジョディーは、FBIの経営する近くの病院にコナンを運んで行った。

黒の組織（後書き）

どうも、工藤杏奈です。

ついに出ました記憶喪失ネタ！ついにといっても初投稿ですが（>0<）

おかしいところがありましたら（たくさんあると思いますが）感想お待ちしております。

搜索

蘭は、阿笠と一緒に哀とコナンを探していた。二人は四日前の朝、ランドセルを背負って出かけてから消息がつかめていない。その朝、コナンはパンパンのランドセルを背負い、手提げ袋を何個も持つて、何かを決意したような顔で「行ってきます。」といった。蘭は、その荷物の量に驚きながら見送った。そのあとコナンの姿を見た人は誰もいない。哀のほうも同じような感じだった。

今日は土曜日。朝から二人を探そうと博士の家に少年探偵団をはじめとして20人ほどの人が集まっていた。そのとき電話が鳴った。博士はしばらく話していたが、だんだん顔が陰しくなり、電話を切ると、「用事が出来た」といって、みんなの反対を押し切り車で出かけてしまった。

搜索（後書き）

作「こんにちは、工藤杏奈です！今日は、蘭さんに来てもらいました！」

蘭「こんにちは。ねえ杏奈さん？こんなところに呼んだんだから、コナン君がどこにいるかぐらい教えてくれるわよね？」

作「（ギクッ）それは次の次の次の次の次くらいでわかると思います。それでは！」シュン（↑作者の逃げた音）

バキッ（↑ロッカーのつぶれた音）

手術

病院に着くとすぐ、コナンは手術室に送られた。

2時間後、心配そうに待つ哀のところに疲れ切った様子の医師がやってきた。

「奇跡です。弾は7発、腹に3発胸に2発両足に1発ずつで、そのうち胸の2発と腹の1発は体内に残っていましたが、危機は通り越しましたよ。それにしても、子供に7発も打つなんて私たちFBIでも初めてですよ。」

と言って去って行った。

一時間後、哀が集中治療室の窓越しにコナンを眺めていると、博士が真っ青な顔で走ってきて哀を抱きしめた。

「哀君・・・無事でよかった。」

「でも、工藤君が・・・」

涙声になりながら言う哀に博士は

「新一がどうかしたのか？」

と間の抜けたことを言う。哀もさすがにあきれ返って、集中治療室を指差した。そっちに目を向けた途端博士は固まった。博士の目に映ったのは、体中に包帯を巻かれ、何本もの管につながれたコナンの姿だった。博士は、しばらくの間立ち尽くしていたが、

「優作君に電話をしてくる。」

と呟いてよろめきながら、出て行った。

翌日、有希子と優作がやってきた。有希子は真っ青な顔をしていたし、いつもポーカークフェイスを崩さない優作も心配そうな青い顔をしていた。

手術（後書き）

作「今日のゲストは元太君です。」

元太「ぐ~~~~~なあねーちゃんうな重くれような重！」

作「うな重は持ってないわよ。」

元太「じゃあ俺うな重食ってくる。じゃーなー！」

作「ちよつと元太君！次回もよろしくお願いします。元太君！まちなさい！」

心配

月曜日、歩美たち少年探偵団は沈んでいた。

『コナンがけがをして重体で、哀もその病院を離れられない。』

それが博士から蘭が受けた報告だった。蘭も粘っていたが、病院の場所は教えてもらえず、小五郎を通して目暮警部にも探してもらったがわからなかった。

一方、蘭もとても心配していた。弟のように可愛がっていたコナンがいなくなっただけでも心配だったのにけがで重傷だというし、コナンの使っていた机から行き先がわからないかと机を漁っていたときに銃弾の空箱を見つけてしまい、内心気が気ではなかった。しかし、警部にもわからなかったのだからと病院を探すのはあきらめ、今は少年探偵団を励まし、考えないようにしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8818k/>

記憶を失って

2010年10月9日19時40分発行